



地域農業の理解を深めてもらおう
消費者と青年農業士が交流

「消費者のみなさんから、農産物や地域農業に対しての理解を深めてもらおう」と、白根地区青年農業士会が企画した消費者との交流会が、十月十四日に行われました。

この日は、白根農業改良普及所管内から四十八人の消費者婦人が参加。花木、果樹、シイタケなど四か所の青年農業士宅の農場見学や、座談会などで有意義な交流を図りました。また、各見学場所では新鮮な農産物を原価で即売——この売り上げは、恵まれない人たちのために生かすことにしているそうです。

交通安全を願いカーブミラー清掃

交通安全に少しでも役立てばと、このほどローター・アクトクラブが、市内に設置されてあるカーブミラーを清掃してくれました。

十二人のクラブ員が三班に分かれて作戦開始。「汚れていたり、壊れているものが結構あるんです。視界の悪い交差点では、カーブミラーが頼りですから」と、額に汗しながら清掃や修理をしていました。交通事故の減少にも、こんな陰の力があるのです。



秋に桜咲く？

—諏訪木の浅原さん宅で

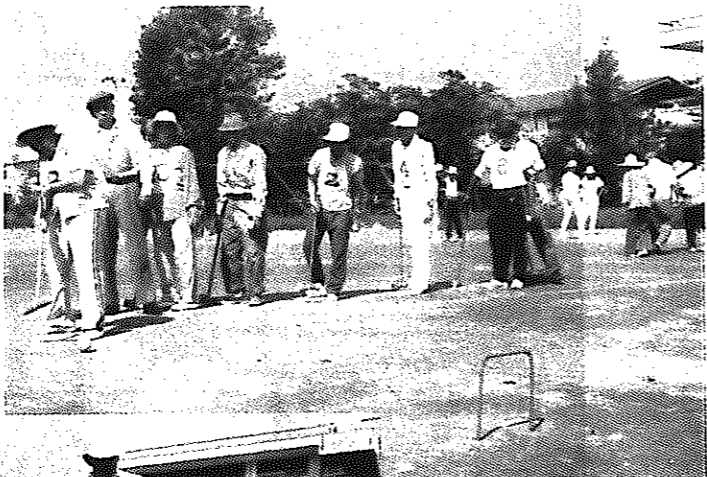
諏訪木の浅原義雄さんが育てている鉢植の桜が、8月に花本つをさせ、思わぬ珍現象「時期と人家族はビックリ。木のためと根分けしたのでは…」とましがえたんでは…」とのノノさん。



きまつているね おじいちゃん

第一回高齢者ゲートボール大会

九月二十六日、白根児童公園で十四チーム、百八十人が参加して「第一回高齢者ゲートボール大会」が行われました。「コートに立つと、体も気持ちもシャーンと引きしまります」というみなさん。日頃お孫さんに見せる優しい顔とは、うって変わって一打一打に真剣な表情です。それでも、会心のショットをきめると、周囲の拍手に思わずニコニコ。一日中、白熱した試合が続きました。優勝は根岸老人クラブ、二位は白井老友会、三位は白寿チームのみなさんでした。



市民文芸

俳句

田藁焼く鬼火が大地舐めてゆく
病葉の舞散る朝の露涼し
実柘榴の赤に薄陽の庭さびし
赤トンボ乱舞残して陽の沈む
愛告げず別れし駅のこぼれ萩
観光のバスも着いてるぶどう園
背を曲げて紫深き葡萄採る
恋ふ人の移り香に似て金木犀
刈り終えて雪国の吾出稼ぎに
子に便り書く妻といる夜長かな
名園や露を褥の萩むむる

石田 豊一
針貝 静男
中山 義英
桑原 平一
石田 豊実
坪川桐太郎
田中 昭一
佐野 竹子
佐藤勇一郎
真保 清三
須戸 義夫

川柳

賞とつてからヒロインの汚れ役
結び目の堅さに誘いの手がしびれ
金払う時だけ主役の顔になり
夢を買い夢で終った宝クジ
針運ぶ指が幸せ呼んでいる
人指さされず寡婦の城守る
歩く子へ母の十指がガードする
裏切った日のペン指に落ちつかず
銀座からつけ馬がくる新幹線
初孫へ目覚しがわりの電話
きっかけを掴んで恋の味を知り
風呂敷の結び目にある母の詩
終点の駅に竹む妻の傘
散り際を見事に善幸やつてのけ

中村 尚治
今井 七郎
竹石 甚五
山岡 フミ
西條 ムラ
吉川 末吉
後藤まさの
高橋祐四雄
花岡 増男
保科 盛広
岡村 清
長井 徳市
大井 義雄
米野 光雄



素晴らしい仲間たちと共に学習

大野佳代子さん (下大郷・農業・29歳)

この地に嫁いで、はや六年が過ぎようとしています。初めは友だちもなく寂しい思いもしましたが、家族の協力もあって、梨の研究グループ「郷和会」に入っています。今では、会の活動を通して何でも相談できる仲間を得ました。

月一回の定例会では、普及所や農協の方を招いて講習会などを開き、梨の栽培技術の研究を重ねています。「子供はどうしたの」「おじいちゃんに頼んできたよ」こんな会話から始まり、三、四時

物価上昇に思う

物価上昇にはケチケチ精神で対応

栗田ムラさん (茨曾根・主婦・49歳)

最近の物価や公共料金の上昇で、乏しい家計費のやりくりで頭の痛い思いをしています。

それに対応して、生活必需品の低い選択的費目をはじめ、食費の

れば、結構安上がりで栄養のバランスもとれ、家計費の節約もできると自負しています。

価格の動きに敏感に対応した消費行動は、受け身で対応するだけでなく、ときには価格に影響を与えることもできると本で読みました。今は、ひところの「消費は美德の時代」は過ぎ、「省エネ時代」

になったようです。私も少しでも省エネを心がけたいと思います。

安い材料で心のこもった手づくり料理と、再生できるものは再生して、これらものは修理して寿命まで使う。こんなケチケチ精神で、上昇する物価と、いつまで続くかわからない不景気に対応して行きたいと思います。

雑感

出会った気分のいい道

丸山常夫さん (南新町・仏壇業・34歳)

月岡温泉へ行く道のことでした。遠くの方で、小学生が信号機のない横断歩道で、こちらを見て待っていました。「渡るのかな」と思っていたら、まだ渡りません。そこで、手前まで車を止めてやると、にっこりと帽子を取って「おじさん、どうもありがとう」と、ようやく渡ってくれました。

どこにでもありそうな一コマでしたが、こんな気分のいい日は、はじめてでした。そんな折、先日の高校の同窓会で水原高校にいる恩師に会った際、その話をすると、

水原町では町ぐるみでやっているとか聞かされ、またの驚きでした。観光の町では、子供たちまでがよい印象を与えて、歓迎に一役買っているのです。そして、この町に来るのが楽しみになってしまいました。

最近の子供は、「ありがとう」一つしなと言われている今日、こんなにさわやかな気分になさしてくれた子供たちを見て、白根市もそんなさわやかな生きがいのあるまちにしたいものだと思うこのころです。

投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄ってください。採用文には薄謝を差し上げます。ページの都合で、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一三五 白根市役所企画課広報広聴係です。